

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890300068
法人名	有限会社ケアサポートさくら
事業所名	グループホームあかり
所在地	愛媛県宇和島市丸穂甲937-15
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 16 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

光、風、空気、四季を感じながら広々とした開放的な環境の中で生活できる。同敷地内にグループホームが2つ並んでおり、デッキを通じ4ユニットの利用者同士の交流が図れる。また、担当ユニットだけでなく、他ユニットの利用者の特性も把握に努め、全職員が支援にあたっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宇和島市中心地の風景を一望できる高台の静かな場所にある事業所で、利用者は穏やかに生活することができる。敷地内にある畑では野菜づくりなどを楽しんでおり、利用者で苗などの植え付けから収穫まで行い、食事やおやつなど食卓に上ることもあり喜ばれている。事業所では年間行事以外にも外出する機会が多く、利用者が地域に出てかかわりを持ち続けながら過ごせるよう支援している。管理者や職員は忙しい中でもゆとりを持って利用者に寄り添い、残存機能や能力を最大限に引き出せるよう取り組んでおり、利用者は男性女性を問わず食事の用意をしたり洗濯物を畳んだり、畑で野菜づくりをするなど、笑顔でいきいきと生活している様子を伺うことができる。利用者の意見や家族の要望を反映した利用者本位の介護計画を立て、自己研鑽のために法人内研修等を実施し、サービスの質の向上にも力を入れている事業所である。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあかり

(ユニット名) ほたる

記入者(管理者)

氏 名 伊藤浩明

評価完了日 H26 年 10 月 18 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 各ユニットごとに自分たちが目指している介護理念を作り、実践に努めている。年度末に各ユニットで見直しをしており、新たな介護理念に変更した。理念は職員の目の届く場所に掲示している。 (外部評価) 事業所の理念とは別に、ユニット毎に職員間で話し合い、誰が見ても分かりやすい言葉で介護理念を作成している。年度末には、介護理念に基づいたサービス提供ができているか評価をするほか、新しい介護理念を作成している。理念は職員全員で共有し、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 保育園の協力によるミュージックケア、ハロウィン、散歩、園児と一緒に芋ほりをしたり、保育園・小学校の運動会への参加等交流は継続している。また、夏祭り等のホームでの行事では地域の方も来ていただいている。食材についても地域のお店を利用している。ホームの広報誌を地域にお配りし、情報を発信している。 (外部評価) 2か月に1回保育園児の訪問があり、歌を歌うミュージックケアが行われている。今年は事業所を提供し、小学生によるハロウィンが開催された。また、保育園や小学校の運動会の案内があり、利用者と一緒に競技にも参加し楽しんでいる。近所の美容室のボランティアの訪問があったり、牛鬼高齢者サロンに参加したりするなど、地域と日常的に交流をしている。また、事業所の便りを地域に回覧してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 毎月のあかりだよりで、毎月1日を見学・相談日としてお知らせし、地域の方の認知症でお困りの時の相談窓口となれるよう努めている。あかりだよりの中に認知症に関するちょっとした豆知識等も掲載することもある。ホームで行っている笑みちゃんカフェへのお誘いを地域に向けて行った。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームでの日常の現状をお伝えしたり、言葉だけでなく写真や映像と合わせて報告することもある。ご家族より意見をいただき、推進会議とは別に家族会も発足した。ホームでの支援に困っている事などは推進会議のメンバーにも報告し、助言やアドバイスもいただくこともある。地域の消防団の方の参加もあり、避難訓練への連携が図れた。 (外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、保育園園長、老人クラブ、消防団、日赤奉仕団、市担当者等の幅広い参加を得て、隣接するグループホームと一緒に開催している。毎回、他事業所の管理者等の参加もあり、貴重な意見や情報を聞くことができています。会議ではスライドショーを取り入れ活動報告をしたところ、参加者に分かりやすいと好評を得ている。管理者は、これからもより良い会議になるよう参加者や内容を検討していくことを考えている。	現在、幅広い参加者で会議が開催されているが、近隣住民とのかかわりを持つ努力も継続することを望みたい。議題に近隣住民が関心が持てるような内容を盛り込むなど、ひと工夫し会議に参加してもらえることを期待したい。また、法人の代表者の人脈や知識を活用し、地域に情報発信しながら事業所自体が地域の一員となるような取組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 広報誌や報告書は速やかに市担当者へ届けて近況を伝え、運営において困ったことやわからない事等は市役所担当者より指示を仰いでいる。運営推進会議にも参加して下さり助言をいただいている。成年後見制度を利用する方の相談などを行っている。 (外部評価) 運営推進会議には市担当者が参加しており、利用者の相談をするなど連携を深めている。利用者の成年後見制度の相談も行っている。また、市地域包括支援センターから依頼があり、気軽に集える場所の提供と事業所の様子や内容を知ってもらうため、「笑みちゃんカフェ」をオープンしている。また、介護相談員を受け入れ、利用者としやすい関係が築かれている。市主催の研修等にも積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修を受け、身体拘束について理解している。身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、どうしてもリスクのある方に対して家族の希望・同意のうえ就寝時のみベッド柵を追加している方がおられる。 (外部評価) 職員が利用者に寄り添い、見守ることで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。新人研修に身体拘束等のテーマを取り入れたり、勉強会やミーティング等で身体拘束をしないケアについて話し合ったりするなど、職員は正しく理解して実践している。ベッドから転倒の恐れのある利用者に見守りなどで対応していたが、家族の希望もあり書面で同意を得て、安全面を考え柵を使用している。言葉での拘束とならないよう、職員全員で意識しながら適切な対応をするよう心がけている。また、夜間のみ安全面に配慮し、玄関の施錠をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修を受け、虐待について理解している。少しの傷やあざ等、原因を探り報告し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を受け、理解している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時、十分に時間をとり丁寧に説明し、理解して頂けるよう心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者との日々のコミュニケーションを通して意見や思いを聞き取れるよう努力し、個別的な支援も行っている。家族の意見から家族会が発足し、家族がより意見を言いやすい会議作りを目指している。家族とは面会時、情報交換を行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族が運営推進会議に参加し、思いや意見を表せる場を設けている。家族の希望で家族会が発足し、積極的に開催されており、正直な意見を聞くことができています。毎月請求書送付時に事業所便りと手紙を添え、遠方の家族にも利用者の状況を分かりやすく伝えている。また、家族に電話等で密に連絡を行い、意見を聞くよう努めている。出された意見は、迅速に対応するよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のユニット会やミーティングだけでなく、リーダー会、各委員会の集まりを開催している。行事の内容も職員で意見を出し合い計画を立て実施をしている。 (外部評価) 管理者は、毎月のミーティングやユニット会で職員の要望や意見を聞くよう努めている。法人には行事や美化などの各委員会の設置があり、職員間で話し合いが活発に行われ、意見や提案が出されている。ユニット会では、利用者の対応について事例検討を行い、改善策を出し合っている。管理者は職員の意見を尊重し、働きやすいシフト組みをするなどコミュニケーションを図りながら、職場環境や信頼関係づくりを大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者による緊急時対応ができ、夜勤帯の職員の安心感につながっている。リフレッシュ休暇として有休がとれる仕組みがある。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 多くの研修に参加する機会があり、ミーティング等で内容の報告、共有に努めている。新任者研修を実施し、新任者に対する内部研修もある。各ユニットに研修案内ファイルを置いており、どのような研修があるのか職員にわかるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 市内のグループホーム交流会が定期的開催されており、そこで意見交換や交流を図っている。相互研修、研修や勉強会、ホームの行事等で他のホームとの交流も継続している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前にホームを見学して頂いたり、本人や家族から話をよく聞いている。事前にカンファレンスを行い、本人に対する支援の方針や情報共有、職員の意識の統一を図っている。特に初期は本人に寄り添い、ホームでの生活で不安や混乱ができるだけ少なくなるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ホームの見学をしてもらい、不安や疑問等がないよう意見交換を行っている。必要に応じてこまめに連絡をとったり、相談している。職員から出た意見なども家族に伝えている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の希望をケアプランに入れている。1日の言動を記録に残し、ユニット会等で話し合い支援の方向性を決めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活全般において、できることはしていただき職員が利用者に感謝を伝えながら生活し、関係を築いている。利用者にとって自分の役割となっている場面もある。利用者から教えてもらう知識や作法も多々ある。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 少しの変化も家族へ近況報告している。行事に家族を招待したり、毎月お手紙を通して状況報告をしている。受診時、外出、外食、面会等出来る範囲で家族に協力をいただいている。面会時は積極的にお話をし、意見交換を行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) かかりつけ医、馴染みの美容院、お墓参り等、利用者からの希望があった際や定期的に継続できるよう努めている。地元のお祭りを見に行ったり、故郷へ行ったり、友人にホームに来ていただいたり、手紙のやりとりをしたり、個別的な支援も行っている。馴染みの関係の所はできるだけ、そちらを優先している。 (外部評価) 友人や知人の面会があったり、家族や友人に電話がかけられるよう支援している。行きつけの美容室に出かけると、店主の計らいで友人や知人が集まってくれたこともあり、利用者が嬉しいひと時を味わっている。利用者の生家や馴染みの道の駅などに出かけられるよう支援している。利用者の要望にできるだけ対応し、馴染みの店に買い物に行く等、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 他利用者に優しく声をかけたり、互いをいたわる場面もある。難聴がある利用者同士の会話の橋渡しをし、関わられるよう支援している。レクリエーションを通して共に楽しんだり協力したり、関係構築に努めている。利用者の性格や特性を把握し、支援にあたっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者が退所された後、ユニット職員で利用者に対する思いやメッセージを手紙に書き、ホームで過ごされた時の写真と合わせてお渡ししている。退所後も推進会議に継続して参加してくれている家族もおられる。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃より会話に努めており、気付いたことは報告し、できるだけ叶えられるよう努めている。利用者本位には考えているができるだけ、利用者の言葉で伝えて頂くようにしている。気付きは日頃やユニット会などでも報告している。 (外部評価) センター方式のシートを活用し、利用者一人ひとりに寄り添いながら、日常会話の中から思いや希望を聞き取るよう努めている。カレーが大好きな利用者の思いを聞き、行きつけの飲食店へカレーを食べに行き、大変満足されたこともある。思いの把握が困難な利用者には、表情や行動を見落とさないようにしたり、生活歴や家族から思いを聞いたりするなど、把握するよう努めている。サービスを強制することのないよう、利用者自身で決定できるような声かけを行うなど、対応方法にも配慮している。また、新たに得た情報は24時間シートや日誌に記録し、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 必要に応じて家族の方にも生活歴をお聞きしたり、入所当初に本人、家族、ケアマネージャーから情報を得るようにしている。新しい情報はシートに記入している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝夕の申し送り時間に徹底して情報を共有し、本人に合わせて暮らして頂けるよう、チームケアに努めている。毎日の記録に現状を残せるよう努め、ユニット会でモニタリングし、情報を共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月ユニット会で担当者がモニタリングし、職員全員でカンファレンスを行い、課題の把握とケアの在り方について検討している。必要に応じてその都度ケアプランを変更している。また、担当者が認定更新ごとにアセスメントし、本人、家族に意向確認して介護計画を作成している。 (外部評価) 特に介護計画の更新時には、家族を含め職員全員でカンファレンスを行い、利用者や家族の意見を反映して、担当者を中心に利用者本位の計画を作成している。ユニット会で定期的にモニタリングを行い、必要に応じてその都度見直しをしている。また、職員全員の意見や利用者への気づきを大事にして、介護計画がより良いものになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護計画の実践を24時間シートの記録に残し、1日の中で取り組むことが出来るようにしている。また、新たな課題が出てきたときには、記録の様式を工夫したり、随時担当者会議を開き、介護計画を見直している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) リハビリ体操やレクリエーションを積極的に行っている。老人サロン(地域の高齢者の集い)の際、会場を提供し利用者と地域の方が一緒にゲームや体操など共に時間を過ごすこともある。遠方の家族がホームに泊まることもある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 保育園、小学校との交流は継続している。地域ボランティア、カラオケ、詩吟、演劇等さまざまなイベントを行っていただいている。地域の魚屋、肉屋、パン屋、八百屋に来所してもらっている。避難訓練では地域の消防団の協力も得られた。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医や専門医への通院は、家族にも協力してもら い継続している。協力医への変更は体調も安定し、家族か らの希望により実施している。体調の変化についてはすぐ に対応したり、協力医の協力も大きい。受診機関について 家族とよく話し合い、利用者の状態に合わせて受診機関を 変更することもある。 (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を受診できるよう支援して いる。月2回往診があり、急変時にも迅速に対応できるこ とから、利用者や家族の希望で協力医をかかりつけ医に変 更する場合もある。通院は家族の同行を基本としている が、困難な場合には職員が同行し、受診内容を家族に報告 し情報を共有するなど、適切な医療を受けられるよう支援 している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師1名、准看護師2名配置しており、常に介護職と看護 職が情報を共有し、共同できている。体調の変化や気付き は、まず看護職に相談している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時にはホームでの生活状況などの情報提供を行い、退 院時にはカンファレンスに参加し、退院後の留意点など指 導を受けている。また入院中は出来るだけ面会に行ってい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早めに対応し、家族とも連携をとり、終末期には主治医を 交えてカンファレンスを行っている。医療連携における連 携体制を整えている。 (外部評価) 「重度化した場合における対応に係る指針・看取りに関す る指針」を定め、入居時に家族に説明をしている。事業所 では看取りの経験があり、利用者の状況の変化に応じて、 利用者や家族等の意向をその都度確認をしながら思いを受 け止め、納得のいく穏やかな最期を迎えられるよう取り組 んでいる。また、管理者は職員の不安解消に努めていくこ とも大切だと考え、心のメンテナンスや勉強会を実施して いる。職員は内部研修や外部研修に参加し、知識を広げ自 信に繋がるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) リスク判定と対策により、事故発生の予防に努めている。救命救急講習を受講していたり、研修に参加しているが、いざという時に実践できるか不安な面がある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年3回の避難訓練を行っている。消防署からの助言もあり、最悪の想定での訓練も実施している。地域の消防団の協力も得られた。夜間停電時の対応としてはLEDライトの取り付けをしている。保存食は避難訓練時に内容の確認と補充をしている。 (外部評価) 年3回避難訓練を実施し、うち1回は消防署立会いのもと訓練を行い、アドバイスをもらっている。夜間など限られた職員での避難誘導など厳しい状況を想定した訓練もしている。定期的に防災器具の点検や使用方法、避難場所を確認するなど、日頃から管理者は利用者の安心安全な生活を守るために、職員の防災意識を高め災害対策に取り組んでいる。また、1日分の備蓄品を用意している。	災害発生時に限られた職員での利用者の避難誘導など、できることには限界があるため、継続して近隣住民に呼びかけ、事業所内を見学してもらうなど協力体制が得られる取組みを期待したい。また、管理者は備蓄の用意が不十分と認識していることから、備蓄品や数量等を見直しすることを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 認知症が進行した人の尊厳を守るために、他利用者の目線にも気を配るようにしている。ゆっくり優しく耳元で声かけすることで、プライバシーや尊厳を守れるよう努めている。一人一人を良く理解し、個性を尊重し違いを把握したうえで、個別の接し方やケアの方法に気を付けている。 (外部評価) 特にトイレや入浴の場面では、利用者の尊厳を損なわないような声かけのタイミングや声の大きさなどに気を配り、カーテンや戸を閉めることを徹底し、膝にタオルを掛けるなど不快感や羞恥心に気配りした対応を心がけている。職員同士の会話にも、利用者等に誤解を招かないよう注意を払っている。また、個人情報の書類等は適切な取り扱いや管理をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 外出やドライブ、行事への参加等本人の希望を聞き参加している。何かを行う前には本人の意思を聞き取り、意思に沿って支援している。日々の飲み物や、買物、洋服選びなどできるだけ本人の意思を尊重している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 得意な分野で活動できるよう声かけしたり、場を設定している。利用者に寄り添い、起床や食事など本人のペースや体調に合わせて希望に沿った支援を行っている。別ユニットで過ごす利用者もおられ、好きなところで過ごせるよう見守りを行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) フリーマーケットを行い、その人らしい好みの洋服を選ばれたり、楽しい時間を過ごすことが出来た。ホームで毛染めを行ったり、美容院に行く支援を希望により実施している。ボランティアの協力によりホームで散髪も行っている。行事の時など、マニキュアを塗ったり、洋服を選んだりしている。衣替えなども一緒に行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備、調理、片づけ等できることはしてもらいながら、会話を楽しみながら過ごせるよう心掛けている。希望があればメニューを変更したり、個別に調理方法を工夫することもある。弁当や仕出し、外食に出掛けることもある。デッキや芝生で園児と食事をしたり、畑でできたものを収穫し調理している。 (外部評価) 担当職員が2週間分の献立を考えているが、利用者からのリクエストに対応したり行商の魚屋から旬の魚を買ったりするなど、メニューが急に変更になることも度々ある。また、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事することができている。調査日のおやつには畑で採れたさつま芋のデザートが振る舞われた。行事には仕出しなど特別食を用意している。また、食事の用意や片付けなど、利用者は男性女性を問わず積極的に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 全職員でメニュー作成に当たっている。夏場には水分補給の回数を増やし、脱水予防に努めたり、水分量、尿量、体重の増減などの把握に努めている。利用者に合わせて食べやすい物、飲みやすい物の工夫をしている。ウォータークーラーを設置し、水分補給できるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 必要に応じて歯科医の訪問診療がある。口腔ケアの食後の声かけ、介助を実施している。スポンジ等その方に合わせて用具も変えている。義歯は定期的にポリドントを介助に行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中は車椅子の方もトイレでの排泄介助をしている。しぐさや動作をみて、トイレ誘導の声かけをしている。本人のタイミングに合わせたり、パターンを把握することにより、オムツなどの使用を減らせるよう努めている。 (外部評価) できるだけ日中はトイレでの排泄を心がけ支援をしている。排泄チェック表を用いて、一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。利用者の状態に合わせて、リハビリパンツを使用したり夜間のみポータブルトイレを使用したりするなどの対応をしている。また、トイレは3か所あり、状態に合わせて使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給に気を付け、牛乳やヤクルトを個別に毎日飲んでいる方もいる。リハビリ体操や散歩の声かけをし、運動が出来るようにしている。排泄の記録により、便秘の方には医師の指示で内服を行い、コントロールしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 10時～17時の間、利用者の希望に合わせて入浴している。人数や回数の制限はない。必要に合わせて足浴や下半身浴をすることもある。利用者の状態に合わせてリフト浴、特浴を利用している。 (外部評価) 日中、毎日入浴できるよう支援している。入浴が苦手な利用者には声かけやタイミングを工夫したり、部分浴で清潔を保持したりしている。利用者の状態に合わせて2人体制で介助したり、リフトや特殊浴槽を使用したりするなど、利用者が気持ちよく安全に入浴できるよう配慮している。また、希望により同性介助の対応もしている。調査の2日前にも温泉に出かけ、利用者に大変喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者の状態に合わせて、日中も少し横になったり、体を休める時間を設けている方もいる。室温、照明、空気の乾燥などの調整も行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員で各担当ごとの服薬の準備をし、内容の確認に努めている。服薬が変更になった時には日誌になぜ変わったのかも記入し、職員で周知徹底している。服薬名を覚える事で、目的や副作用も理解できるよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活全般において各利用者にとって自分の仕事として進んでされている場面も多い。声かけやこちらからの提案がなくても、利用者から気付き行ってくれたり、取り組んでくれることもある。笑みちゃんカフェ(ホーム内喫茶)、はまゆうの会(男子会)を実施している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 広告を見てお店に買物に出かけたり、お彼岸にお墓参りに出掛けたり、日々の買い物や外食に出掛けたり、少数～ユニットごとなどで出かける事もある。家族と一緒に外出したり、外食される方もいる。地域の祭り等へ見学に行ったり、行事に参加している。 (外部評価) 事業所前の庭は広く、市街を見下ろせる風景を眺めながら日常的に外気浴を楽しんでいる。日頃から敷地内の畑で野菜づくりをしたり、事業所周辺を散歩したり、日用品の買い物に出かけるなど、外出できる機会を多く取り入れて支援している。季節毎の外出も支援しており、その際にはお弁当を持って出かけたり外食を取り入れたりするなど、利用者の楽しみに繋がるよう努めている。また、家族の協力も得ながら自宅に帰るなど外出をする利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出の際、出来る方は自分で支払えるよう支援している。小遣いを持つことで安心感につながることもあるため、自分で少額の小遣いを持っている方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を持っている方もおられ自由に使われている方もおられる。ホームの電話を使う方、電話の取次ぎが必要な方それぞれに合わせて希望があれば支援している。手紙やはがきの代筆や投函を支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 前面に広い芝生や景色が見られ、夕焼けまで楽しむことが出来るようになっていく。季節の掲示物、グリーンカーテンや植物など季節に合わせて利用者と一緒に取り組んでいる。一人で過ごせる環境と複数で過ごせる環境もある。 (外部評価) 廊下やリビングの天井は高く、梁の見える開放的な空間となっている。間接照明は柔らかく、大きな窓からは自然な光が差し込んで明るい。廊下の壁には、季節の飾りつけや敬老の日に小学生から送られてきた手紙が飾られている。また、リビングにはソファが置かれ、家庭的な雰囲気の中、利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。夏場にはゴーヤのグリーンカーテンをつくり、今年は大豊作で散歩帰りには収穫が習慣となっていた。共用空間の環境整備が行き届き、利用者が気持ちよく過ごせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 図書コーナーの設置は興味のある方がゆっくり楽しめる空間になっている。キッチンカウンターやデッキ、ソファ、マッサージチェアの配置により、思い思いの場所で自由に過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたタンスやソファ、テレビなど持ってこられ使っている。お位牌や家族の写真などを飾っている方もおられる。自分の描いた塗り絵貼っている方もいる。必要時家族も泊まれるようソファベッドも準備している。 (外部評価) 居室はベッド、洗面台、エアコンが備え付けとなっている。居室にはテレビや机、いす、鏡台、仏壇、家族の写真等が持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう利用者一人ひとりに合わせた個性のある空間づくりをしている。また、遠方の家族が訪問時に一緒に泊まれるよう、居室内にソファベッドを置く配慮もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ベッドの位置や車椅子、Pトイレの置く位置、など本人の力に合わせて設定している。夜間の照明の調整やトイレの表示や、同線の確保など工夫している。ヒヤリハットが出た際は対策をしっかりと話し合い、事故防止に努めている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890300068
法人名	有限会社ケアサポートさくら
事業所名	グループホームあかり
所在地	愛媛県宇和島市丸穂甲937-15
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 18 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

光、風、空気、四季を感じながら広々とした開放的な環境の中で生活できる。同敷地内にグループホームが2つ並んでおり、デッキを通じ4ユニットの利用者同士の交流が図れる。また、担当ユニットだけでなく、他ユニットの利用者の特性も把握に努め、全職員が支援にあたっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宇和島市中心地の風景を一望できる高台の静かな場所にある事業所で、利用者は穏やかに生活することができる。敷地内にある畑では野菜づくりなどを楽しんでおり、利用者で苗などの植え付けから収穫まで行い、食事やおやつなど食卓に上ることもあり喜ばれている。事業所では年間行事以外にも外出する機会が多く、利用者が地域に出てかかわりを持ち続けながら過ごせるよう支援している。管理者や職員は忙しい中でもゆとりを持って利用者に寄り添い、残存機能や能力を最大限に引き出せるよう取り組んでおり、利用者は男性女性を問わず食事の用意をしたり洗濯物を畳んだり、畑で野菜づくりをするなど、笑顔でいきいきと生活している様子を伺うことができる。利用者の意見や家族の要望を反映した利用者本位の介護計画を立て、自己研鑽のために法人内研修等を実施し、サービスの質の向上にも力を入れている事業所である。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあかり

(ユニット名) すばる

記入者(管理者)

氏 名 伊藤浩明

評価完了日 H26 年 10 月 18 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 各ユニットごとに自分たちが目指している介護理念を作り、実践に努めている。年度末に各ユニットで見直しをしており、新たな介護理念に変更した。理念は職員の目の届く場所に掲示している。 (外部評価) 事業所の理念とは別に、ユニット毎に職員間で話し合い、誰が見ても分かりやすい言葉で介護理念を作成している。年度末には、介護理念に基づいたサービス提供ができているか評価をするほか、新しい介護理念を作成している。理念は職員全員で共有し、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 保育園の協力によるミュージックケア、ハロウィン、散歩、園児と一緒に芋ほりをしたり、保育園・小学校の運動会への参加等交流は継続している。また、夏祭り等のホームでの行事では地域の方も来ていただいている。食材についても地域のお店を利用している。ホームの広報誌を地域にお配りし、情報を発信している。 (外部評価) 2か月に1回保育園児の訪問があり、歌を歌うミュージックケアが行われている。今年は事業所を提供し、小学生によるハロウィンが開催された。また、保育園や小学校の運動会の案内があり、利用者と一緒に競技にも参加し楽しんでいる。近所の美容室のボランティアの訪問があったり、牛鬼高齢者サロンに参加したりするなど、地域と日常的に交流をしている。また、事業所の便りを地域に回覧してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 毎月のあかりだよりで、毎月1日を見学・相談日としてお知らせし、地域の方の認知症でお困りの時の相談窓口となれるよう努めている。あかりだよりの中に認知症に関するちょっとした豆知識等も掲載することもある。ホームで行っている笑みちゃんカフェへのお誘いを地域に向けて行った。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) ホームでの日常の現状をお伝えしたり、言葉だけでなく写 真や映像と合わせて報告することもある。ご家族より意見 をいただき、推進会議とは別に家族会も発足した。ホーム での支援に困っている事などは推進会議のメンバーにも報 告し、助言やアドバイスもいただくこともある。地域の消 防団の方の参加もあり、避難訓練への連携が図れた。 (外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、保育園園長、老人クラ ブ、消防団、日赤奉仕団、市担当者等の幅広い参加を得 て、隣接するグループホームと一緒に開催している。毎 回、他事業所の管理者等の参加もあり、貴重な意見や情報 を聞くことができている。会議ではスライドショーを取り 入れ活動報告をしたところ、参加者に分かりやすいと好評 を得ている。管理者は、これからもより良い会議になるよ う参加者や内容を検討していくことを考慮している。	現在、幅広い参加者で会議が開催されているが、近隣 住民とのかかわりを持つ努力も継続することを望みた い。議題に近隣住民が関心を持てるような内容を盛り 込むなど、ひと工夫し会議に参加してもらえることを 期待したい。また、法人の代表者の人脈や知識を活用 し、地域に情報発信しながら事業所自体が地域の一員 となるような取組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 広報誌や報告書は速やかに市担当者へ届けて近況を伝え、 運営において困ったことやわからない事等は市役所担当者 より指示を仰いでいる。運営推進会議にも参加して下さり 助言をいただいている。成年後見制度を利用する方の相談 などを行っている。 (外部評価) 運営推進会議には市担当者が参加しており、利用者の相談 をするなど連携を深めている。利用者の成年後見制度の相 談も行っている。また、市地域包括支援センターから依頼 があり、気軽に集える場所の提供と事業所の様子や内容を 知ってもらうため、「笑みちゃんカフェ」をオープンして いる。また、介護相談員を受け入れ、利用者と話しやすい 関係が築かれている。市主催の研修等にも積極的に参加し ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修を受け、身体拘束について理解している。身体拘束を しないケアに取り組んでいる。 (外部評価) 職員が利用者に寄り添い、見守ることで身体拘束をしない ケアに取り組んでいる。新人研修に身体拘束等のテーマを 取り入れたり、勉強会やミーティング等で身体拘束をしない ケアについて話し合ったりするなど、職員は正しく理解 して実践している。ベッドから転倒の恐れのある利用者 に見守りなどで対応していたが、家族の希望もあり書面で同 意を得て、安全面を考え柵を使用している。言葉での拘束 とならないよう、職員全員で意識しながら適切な対応をす るよう心がけている。また、夜間のみ安全面に配慮し、玄 関の施錠をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修を受け、虐待について理解している。少しの傷やあざ等、原因を探り報告し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を受け、理解している。現在、後見人制度を利用されている方がおられる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時、十分に時間をとり丁寧に説明し、理解して頂けるよう心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者との日々のコミュニケーションを通して意見や思いを聞き取れるよう努力し、個別的な支援も行っている。家族の意見から家族会が発足し、家族がより意見を言いやすい会議作りを目指している。家族とは面会時、情報交換を行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族が運営推進会議に参加し、思いや意見を表せる場を設けている。家族の希望で家族会が発足し、積極的に開催されており、正直な意見を聞くことができています。毎月請求書送付時に事業所便りと手紙を添え、遠方の家族にも利用者の状況を分かりやすく伝えている。また、家族に電話等で密に連絡を行い、意見を聞くよう努めている。出された意見は、迅速に対応するよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のユニット会やミーティングだけでなく、リーダー会、各委員会の集まりを開催している。行事の内容も職員で意見を出し合い計画を立て実施をしている。 (外部評価) 管理者は、毎月のミーティングやユニット会で職員の要望や意見を聞くよう努めている。法人には行事や美化などの各委員会の設置があり、職員間で話し合いが活発に行われ、意見や提案が出されている。ユニット会では、利用者の対応について事例検討を行い、改善策を出し合っている。管理者は職員の意見を尊重し、働きやすいシフト組みをするなどコミュニケーションを図りながら、職場環境や信頼関係づくりを大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者による緊急時対応ができ、夜勤帯の職員の安心感につながっている。リフレッシュ休暇として有休がとれる仕組みがある。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 多くの研修に参加する機会があり、ミーティング等で内容の報告、共有に努めている。新任者研修を実施し、新任者に対する内部研修もある。各ユニットに研修案内ファイルを置いており、どのような研修があるのか職員にわかるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 市内のグループホーム交流会が定期的に行われており、そこで意見交換や交流を図っている。相互研修、研修や勉強会、ホームの行事等で他のホームとの交流も継続している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前にホームを見学して頂いたり、本人や家族から話をよく聞いている。事前にカンファレンスを行い、本人に対する支援の方針や情報共有、職員の意識の統一を図っている。特に初期は本人に寄り添い、ホームでの生活で不安や混乱ができるだけ少なくなるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ホームの見学をしてもらい、不安や疑問等がないよう意見交換を行っている。必要に応じてこまめに連絡をとったり、相談している。職員から出た意見なども家族に伝えている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の希望をケアプランに入れている。1日の言動を記録に残し、ユニット会等で話し合い支援の方向性を決めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活全般において、できることはしていただき職員が利用者に感謝を伝えながら生活し、関係を築いている。利用者にとって自分の役割となっている場面もある。利用者から教えてもらう知識や作法も多々ある。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 少しの変化も家族へ近況報告している。行事に家族を招待したり、毎月お手紙を通して状況報告をしている。受診時、外出、外食、面会等出来る範囲で家族に協力をいただいている。面会時は積極的にお話をし、意見交換を行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) かかりつけ医、馴染の美容院、お墓参り等、利用者からの希望があった際や定期的に継続できるよう努めている。地元のお祭りを見に行ったり、故郷へ行ったり、友人にホームに来ていただいたり、手紙のやりとりをしたり、個別的な支援も行っている。馴染の関係のところはできるだけ、そちらを優先している。 (外部評価) 友人や知人の面会があったり、家族や友人に電話がかけられるよう支援している。行きつけの美容室に出かけると、店主の計らいで友人や知人が集まってくれたこともあり、利用者が嬉しいひと時を味わっている。利用者の生家や馴染みの道の駅などに出かけられるよう支援している。利用者の要望にできるだけ対応し、馴染みの店に買い物に行く等、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 他利用者に優しく声をかけたり、互いをいたわる場面もある。難聴がある利用者同士の会話の橋渡しをし、関わられるよう支援している。レクリエーションを通して共に楽しんだり協力したり、関係構築に努めている。利用者の性格や特性を把握し、支援にあたっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者が退所された後、ユニット職員で利用者に対する思いやメッセージを手紙に書き、ホームで過ごされた時の写真と合わせてお渡ししている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃より会話に努めており、気付いたことは報告し、できるだけ叶えられるよう努めている。利用者本位には考えているができるだけ、利用者の言葉で伝えて頂くようにしている。気付きは日頃やユニット会などでも報告している。 (外部評価) センター方式のシートを活用し、利用者一人ひとりに寄り添いながら、日常会話の中から思いや希望を聞き取るよう努めている。カレーが大好きな利用者の思いを聞き、行きつけの飲食店へカレーを食べに行き、大変満足されたこともある。思いの把握が困難な利用者には、表情や行動を見落とさないようにしたり、生活歴や家族から思いを聞いたりするなど、把握するよう努めている。サービスを強制することのないよう、利用者自身で決定できるような声かけを行うなど、対応方法にも配慮している。また、新たに得た情報は24時間シートや日誌に記録し、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 必要に応じて家族の方にも生活歴をお聞きしたり、入所当初に本人、家族、ケアマネージャーから情報を得るようにしている。新しい情報はシートに記入している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝夕の申し送り時間に徹底して情報を共有し、本人に合わせて暮らして頂けるよう、チームケアに努めている。毎日の記録に現状を残せるよう努め、ユニット会でモニタリングし、情報を共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月ユニット会で担当者がモニタリングし、職員全員でカンファレンスを行い、課題の把握とケアの在り方について検討している。必要に応じてその都度ケアプランを変更している。また、担当者が認定更新ごとにアセスメントし、本人、家族に意向確認して介護計画を作成している。 (外部評価) 特に介護計画の更新時には、家族を含め職員全員でカンファレンスを行い、利用者や家族の意見を反映して、担当者を中心に利用者本位の計画を作成している。ユニット会で定期的にモニタリングを行い、必要に応じてその都度見直しをしている。また、職員全員の意見や利用者への気づきを大事にして、介護計画がより良いものになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護計画の実践を24時間シートの記録に残し、1日の中で取り組むことが出来るようにしている。また、新たな課題が出てきたときには、記録の様式を工夫したり、随時担当者会議を開き、介護計画を見直している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) リハビリ体操やレクリエーションを積極的に行っている。老人サロン(地域の高齢者の集い)の際、会場を提供し利用者と地域の方が一緒にゲームや体操など共に時間を過ごすこともある。遠方の家族がホームに泊まることもある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 保育園、小学校との交流は継続している。地域ボランティア、カラオケ、詩吟、演劇等さまざまなイベントを行っていただいている。地域の魚屋、肉屋、パン屋、八百屋に来所してもらっている。避難訓練では地域の消防団の協力も得られた。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医や専門医への通院は、家族にも協力してもらい継続している。協力医への変更は体調も安定し、家族からの希望により実施している。体調の変化についてはすぐに対応したり、協力医の協力も大きい。受診機関について家族とよく話し合い、利用者の状態に合わせて受診機関を変更することもある。 (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を受診できるよう支援している。月2回往診があり、急変時にも迅速に対応できることから、利用者や家族の希望で協力医をかかりつけ医に変更する場合もある。通院は家族の同行を基本としているが、困難な場合には職員が同行し、受診内容を家族に報告し情報を共有するなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師1名、准看護師2名配置しており、常に介護職と看護職が情報を共有し、共同できている。体調の変化や気付きは、まず看護職に相談している。訪問看護を利用する際は、口頭、記録ノートで情報交換を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時にはホームでの生活状況などの情報提供を行い、退院時にはカンファレンスに参加し、退院後の留意点など指導を受けている。また入院中は出来るだけ面会に行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早めに対応し、家族とも連携をとり、終末期には主治医を交えてカンファレンスを行っている。医療連携における連携体制を整えている。 (外部評価) 「重度化した場合における対応に係る指針・看取りに関する指針」を定め、入居時に家族に説明をしている。事業所では看取りの経験があり、利用者の状況の変化に応じて、利用者や家族等の意向をその都度確認をしながら思いを受け止め、納得のいく穏やかな最期を迎えられるよう取り組んでいる。また、管理者は職員の不安解消に努めていくことも大切だと考え、心のメンテナンスや勉強会を実施している。職員は内部研修や外部研修に参加し、知識を広げ自信に繋がるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) リスク判定と対策により、事故発生の予防に努めている。救命救急講習を受講していたり、研修に参加しているが、いざという時に実践できるか不安な面がある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年3回の避難訓練を行っている。消防署からの助言もあり、最悪の想定での訓練も実施している。地域の消防団の協力も得られた。夜間停電時の対応としてはLEDライトの取り付けをしている。保存食は避難訓練時に内容の確認と補充をしている。 (外部評価) 年3回避難訓練を実施し、うち1回は消防署立会いのもと訓練を行い、アドバイスをもらっている。夜間など限られた職員での避難誘導など厳しい状況を想定した訓練もしている。定期的に防災器具の点検や使用方法、避難場所を確認するなど、日頃から管理者は利用者の安心安全な生活を守るために、職員の防災意識を高め災害対策に取り組んでいる。また、1日分の備蓄品を用意している。	災害発生時に限られた職員での利用者の避難誘導など、できることには限界があるため、継続して近隣住民に呼びかけ、事業所内を見学してもらうなど協力体制が得られる取組みを期待したい。また、管理者は備蓄の用意が不十分と認識していることから、備蓄品や数量等を見直しすることを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 認知症が進行した人の尊厳を守るために、他利用者の目線にも気を配るようにしている。ゆっくり優しく耳元で声かけすることで、プライバシーや尊厳を守れるよう努めている。一人一人を良く理解し、個性を尊重し違いを把握したうえで、個別の接し方やケアの方法に気を付けている。親しくなりすぎていたり、言葉遣いにも気を付けている。 (外部評価) 特にトイレや入浴の場面では、利用者の尊厳を損なわないような声かけのタイミングや声の大きさなどに気を配り、カーテンや戸を閉めることを徹底し、膝にタオルを掛けるなど不快感や羞恥心に気配りした対応を心がけている。職員同士の会話にも、利用者等に誤解を招かないよう注意を払っている。また、個人情報の書類等は適切な取り扱いや管理をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 外出やドライブ、行事への参加等本人の希望を聞き参加している。何かを行う前には本人の意思を聞き取り、意思に沿って支援している。日々の飲み物や、買物、洋服選びなどできるだけ本人の意思を尊重している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 得意な分野で活動できるよう声かけしたり、場を設定している。利用者に寄り添い、起床や食事など本人のペースや体調に合わせて希望に沿った支援を行っている。別ユニットで過ごす利用者もおられ、好きなところで過ごせるよう見守りを行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) フリーマーケットを行い、その人らしい好みの洋服を選ばれたり、楽しい時間を過ごすことが出来た。ホームで毛染めを行ったり、美容院に行く支援を希望により実施している。ボランティアの協力によりホームで散髪も行っている。行事の時など、マニキュアを塗ったり、洋服を選んだりしている。衣替えなども一緒に行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備、調理、片づけ等できることはしてもらいながら、会話を楽しみながら過ごせるよう心掛けている。希望があればメニューを変更したり、個別に調理方法を工夫することもある。弁当や仕出し、外食に出掛けることもある。デッキや芝生で園児と食事をしたり、畑でできたものを収穫し調理している。 (外部評価) 担当職員が2週間分の献立を考えているが、利用者からのリクエストに対応したり行商の魚屋から旬の魚を買ったりするなど、メニューが急に変更になることも度々ある。また、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事することができている。調査日のおやつには畑で採れたさつま芋のデザートが振る舞われた。行事には仕出しなど特別食を用意している。また、食事の用意や片付けなど、利用者は男性女性を問わず積極的に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 全職員でメニュー作成に当たっている。夏場には水分補給の回数を増やし、脱水予防に努めたり、水分量、尿量、体重の増減などの把握に努めている。利用者に合わせて食べやすい物、飲みやすい物の工夫をしている。ウォータークーラーを設置し、水分補給できるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 必要に応じて歯科医の訪問診療がある。口腔ケアの食後の声かけ、介助を実施している。スポンジ等その方に合わせて用具も変えている。義歯は定期的にポリドントを介助に行っている。通院し、口腔内の汚れをとってもらっている方もおられる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中は車椅子の方もトイレでの排泄介助をしている。しぐさや動作をみて、トイレ誘導の声かけをしている。本人のタイミングに合わせたり、パターンを把握することにより、オムツなどの使用を減らせるよう努めている。 (外部評価) できるだけ日中はトイレでの排泄を心がけ支援をしている。排泄チェック表を用いて、一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。利用者の状態に合わせて、リハビリパンツを使用したり夜間のみポータブルトイレを使用したりするなどの対応をしている。また、トイレは3か所あり、状態に合わせて使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給に気を付けている。リハビリ体操や散歩の声かけをし、運動が出来るようにしている。排泄の記録により、便秘の方には医師の指示で内服を行い、コントロールしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 10時～17時の間、利用者の希望に合わせて入浴している。人数や回数の制限はない。必要に合わせて足浴や下半身浴をすることもある。利用者の状態に合わせてリフト浴、特浴を利用している。 (外部評価) 日中、毎日入浴できるよう支援している。入浴が苦手な利用者には声かけやタイミングを工夫したり、部分浴で清潔を保持したりしている。利用者の状態に合わせて2人体制で介助したり、リフトや特殊浴槽を使用したりするなど、利用者が気持ちよく安全に入浴できるよう配慮している。また、希望により同性介助の対応もしている。調査の2日前にも温泉に出かけ、利用者に大変喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者の状態に合わせて、日中も少し横になったり、体を休める時間を設けている方もいる。室温、照明、空気の乾燥などの調整も行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員で各担当ごとの服薬の準備をし、内容の確認に努めている。服薬が変更になった時には日誌になぜ変わったのかも記入し、職員で周知徹底している。服薬名を覚える事で、目的や副作用も理解できるよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活全般において各利用者にとって自分の仕事として進んでされている場面も多い。声かけやこちらからの提案がなくても、利用者から気付き行ってくれたり、取り組んでくれることもある。笑みちゃんカフェ(ホーム内喫茶)、はまゆうの会(男子会)を実施している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 広告を見てお店に買物に出かけたり、お彼岸にお墓参りに出掛けたり、日々の買い物や外食に出掛けたり、少数～ユニットごとなどで出かける事もある。家族と一緒に外出したり、外食される方もいる。地域の祭り等へ見学に行ったり、行事に参加している。 (外部評価) 事業所前の庭は広く、市街を見下ろせる風景を眺めながら日常的に外気浴を楽しんでいる。日頃から敷地内の畑で野菜づくりをしたり、事業所周辺を散歩したり、日用品の買い物に出かけるなど、外出できる機会を多く取り入れて支援している。季節毎の外出も支援しており、その際にはお弁当を持って出かけたり外食を取り入れたりするなど、利用者の楽しみに繋がるよう努めている。また、家族の協力も得ながら自宅に帰るなど外出をする利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出の際、出来る方は自分で支払えるよう支援している。小遣いを持つことで安心感につながることもあるため、自分で少額の小遣いを持っている方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ホームの電話を使う方、電話の取次ぎが必要な方それぞれに合わせて希望があれば支援している。手紙やはがきの代筆や投函を支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 前面に広い芝生や景色が見られ、夕焼けまで楽しむことが出来るようになってきている。季節の掲示物、グリーンカーテンや植物など季節に合わせて利用者と一緒に取り組んでいる。一人で過ごせる環境と複数で過ごせる環境もある。 (外部評価) 廊下やリビングの天井は高く、梁の見える開放的な空間となっている。間接照明は柔らかく、大きな窓からは自然な光が差し込んで明るい。廊下の壁には、季節の飾りつけや敬老の日に小学生から送られてきた手紙が飾られている。また、リビングにはソファが置かれ、家庭的な雰囲気の中、利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。夏場にはゴーヤのグリーンカーテンをつくり、今年は大豊作で散歩帰りには収穫が習慣となっていた。共用空間の環境整備が行き届き、利用者が気持ちよく過ごせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 図書コーナーの設置は興味のある方がゆっくり楽しめる空間になっている。キッチンカウンターやデッキ、ソファ、マッサージチェアの配置により、思い思いの場所で自由に過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたダンスやソファ、テレビなど持ってこられ使っている。お位牌や家族の写真などを飾っている方もおられる。自分の描いた塗り絵貼っている方もいる。必要時家族も泊まれるようソファベッドも準備している。 (外部評価) 居室はベッド、洗面台、エアコンが備え付けとなっている。居室にはテレビや机、いす、鏡台、仏壇、家族の写真等が持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう利用者一人ひとりに合わせた個性のある空間づくりをしている。また、遠方の家族が訪問時に一緒に泊まれるよう、居室内にソファベッドを置く配慮もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ベッドの位置や車椅子、Pトイレの置く位置、など本人の力に合わせて設定している。夜間の照明の調整やトイレの表示や、同線の確保など工夫している。ヒヤリハットが出た際は対策をしっかりと話し合い、事故防止に努めている。	